

果実の種子土に埋めて子が持つ未来母の不幸は吾のみのもの

球根を土に還して結実を待つ幾度かのくり返しに癒ゆるか夫も

美しき形に憎む感情もつまれゆく闇に深く息吸ふ ひとり

靴型の雲ひとつ残して晩夏の夕べあわたし 詩の貧血

易々と掌の中に死なしめし蚊の脆さもとどめおくべき 夏の譜